

4月に向けて

代表取締役 三田雅憲

いよいよ今期も終わり、新しい期を迎えます。前期を振り返る時期、又新しい期に対して目標を定め、自己鍛錬をしていく時期に来ました。

当社としては、3月におかげさまで「健康優良法人2024」の認証を頂いたことは、既にWEBサイトでも公示いたしました。3月より社長と社員が、1対1で話をする「1on1ミーティング」もスタートさせました。これは日頃思っても話せない本音をぶつけてもらう時間です。まだまだ皆さんの本音を引き出すところまでは行ってませんが、回を重ねて少しでも良かったと、社員皆様から伝えてもらおうと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

又今期4月より、会社の経営方針を社員の前で公表していきます。これも平たく言えば、会社の目標であります。皆さんに目標を持って頑張りなさい、という割に会社の目標はどこなの？と思われる方も多いと思います。それに答える意味もあります。その会社の目標は、チーム目標として皆さんも一緒に目指してもらいます。野球においても個人目標とチーム目標があるようにです。

大谷選手は、小さい頃より大リーグで二刀流で活躍することを目標に、そのための逆算的に練習を行っていたそうです。そのために非常なストイックさと、集中力を身に付けていたようです。

今月は少し大谷選手を含む大リーグの話をしていきます。

大谷選手のドジャーズ移籍や、結婚と何かと話題になる大リーグですが、先般その大谷選手が所属するドジャーズの大谷選手の通訳職員の水原一平氏（39歳）が、違法なスポーツ賭博にのめり込んで（ラスベガス以外）その負けた借金額は450万ドル（日本円で6億8000万円）とも言われています。大谷選手にとっては専属通訳のみならず、運転手や練習相手なども務め、公私にわたって支えてきた人物であります。

しかし、メディア報道によると米国において法的なルールを犯した人物は、即刻退去を求められる厳しい世界であるようです。先日、自身も大リーグ経験者の藤川元選手がコメンテーターとしてコメントをしておられました。内容は下記の通りです。

アナウンサー 「大谷選手の調子はどうですか？」

藤川 「投手としてのリハビリのフェーズが高くなり、厳しいリハビリの中で打撃も求められるので大変だと思うが、彼がチームから期待されているのは二刀流なのでどちらも手を抜かない。ただ日本と違って大リーグはオープン戦だけでなく、後半からが勝負となってくるので徐々に良くなっていくと思う。」

アナウンサー 「今回は韓国でのオープン戦ですが」

藤川 「大リーグはビジネススポーツなので、これもアジア戦略の一つである。アジア地域で大リーグを盛り上げていくための戦略なので、各選手はそれを心得ていると思う。」

アナウンサー 「パドレス所属のダルビッシュ有選手が、韓国の熱烈なファンのお店を訪ねたことが話題となっていますね。」

藤川 「ファンサービスも大リーガーの大切な仕事である。ファンがあつて自分たちが生活していることを心得ている。現にアジア系通訳団がドジャーズにも何人もいる。」

野球というビジネス（仕事）について、非常にドライで、尚且つ仕事が出来なければ存在感も失せていくという、厳しい弱肉強食の世界を藤川氏は淡々と述べておられました。選手が野球というビジネス（仕事）で結果を出すためにしっかりと練習を重ね、ルールに沿って成績を残し、それが評価に繋がるという、いたく当然であることがそのやり取りでも感じました。

日本においては、政治家自身が自分たちが作ったルールのそのルール違反に対して甘く、責任者も言い訳ばかりで相変わらず秘書などのせいにしている状況があります。

検察からすれば、（派閥の）政治団体から（政治家個人の）政治団体への金の動きなので、なんら違反はない合法的な政治活動であるとの論評ですが、国民として見たときに、本当に政治活動に使用しているかは疑問であります。このようなグレー部分の多いのが日本であり、バツサリしたのが先述しましたアメリカの社会のように思います。すべてが黒白とは言いませんし、アメリカが全部よしとは言いませんが、違反があつた場合に厳しく対処することが、相互に緊張感をもたらすような気がします。私どももお互い最低限の決められたルールを守り、仕事を通じて社会貢献することを目標として当社は頑張っていきたいと思います。

又4月より、大阪本社には2名の新卒者が仲間として入社してくれます。当社は女性活躍を推進する為に、2026年までにエルボシ認定を目指しております。女性を認め、女性の特性を生かして、将来に渡って長く勤めてもらえるように会社も取り組みます。特にベテラン社員は頭を切り替えて、ジェンダーフリーの精神で迎えてください。改めて若者、女性、中堅、ベテラン、高齢者が共存できる会社になるように1人1人が尽力してください。そして女性活躍と言わずとも「いやみんなめっちゃ頑張ってるやん」という会社に少しでも近づくように皆で頑張っていきたいと思います。